



研究所だより

第131号 令和6年3月
発行：草津市立教育研究所



令和5年度 草津市校長会 代表の京近武史先生よりお言葉をいただきました。

令和時代の働き方

草津市立老上西小学校 校長 京近 武史

テレビで「不適切にもほどがある」というドラマを見ました。俳優の阿部サダヲさん主演のドラマです。昭和時代のおじさん教師（阿部サダヲ）が令和の時代にタイムスリップするという話です。昭和の時代には当たり前だったものが、令和の時代では不適切とされますが、不適切といってもほどがある、本当にそれでいいのかと問いかけるような内容です。昭和生まれの私にとっては、懐かしい思いと共にコメディチックなところもあり、ついのもりこんで見てしまいました。

そのドラマの中で働き方改革のことが話題になっていました。昭和の主人公が「働き方改革って何だい、働き方ってがむしゃらと馬車馬しか知らない」というセリフがありました。たしかに私自身も時間を気にせず、長い時間学校で仕事をするのが美学でもあるかのように働いてきた世代です。

教職員の働き方改革については、教員不足という全国的な課題や教職員の健康と生活を守るという意味からしても緊急に進めていく必要があると思います。社会の変化とともに人々の価値観や考え方が変わり、学校もその変化についていく必要があります。ただし、一方では、改革の声を大きくしすぎて、これまでの積み重ねてきた教育が否定されることは、またこれも違うような気がしますし、このことによって、教育への意欲が削がれていってしまうという教職員がいることも確かです。ドラマの中で、「その改革は誰の役に立っているの?」、「働き方って人それぞれあっていいのでは?」という場面もあります。多様性を大切にする時代ですから、働き方も多様性が求め

られるのかもしれませんが。

忘れてはならないのは、私たち教職員の働き方改革は、子どものウェルビーイングにつながるものであること。教職員が余裕を持って働くことが、子どもと向き合う時間の確保につながり、より、充実した教育を行うことができるということが大前提です。これがないと、保護者や地域からの理解や協力が得られず、前に進むことができないのだと思います。

文部科学省が次期学習指導要領から、授業時間を45分から40分に短縮し学校裁量の時間を増やす方向で検討しているというニュースが飛び込んできました。ICTなどを活用し、授業を効率よく進め、余った時間を学校ごとの課題に応じた時間に使うことを想定しているのだと思います。さらに、この授業時間の短縮は、放課後の時間を増やすことにつながることができますので、一気に働き方改革を進めることができます。是非、前倒ししてでも実現してほしいと思います。

まだまだ課題がたくさんあり、なかなか一気に進まない教職員の働き方改革ですが、肝心なのは、子どもと直接かかわっている教職員一人ひとりが働き方をどのように捉え、どうしたいと思っているかだと思います。少しずつ環境や意識が変わっていている実感はありますが、もっと、一人ひとりが知恵を出し合い、令和の時代に合った方法で、不適切な働き方改革になっていないかを確認しながら、教職員も子どももウェルビーイングな学校をめざして進めていくことが大切なのだと思います。



令和5年度 草津市教育研究奨励事業

今年度も多くの先生方が本事業に応募し、取り組んでくださいました。ありがとうございました。

教育研究奨励事業は、市内の教職員・保育士の自発的な教育研究活動の促進を図るため、個人またはグループの研究に対して奨励賞を授与しています。研究に取り組む中で、教育・保育現場における意欲的かつ創意あふれる学級、学年、学校・園・所の経営ならびに学習指導法の改善と充実につながることで、教職員・保育士の資質向上、草津市の教育・保育の向上を図ることを目的としています。

今年度の応募状況は以下の通りで、応募総数は30点でした。

	保・幼・こども園	小学校	中学校	合計
①就学前教育研究部門	2点			2点
②ステップアップ研究部門		5点	1点	6点
③フレッシュ研究部門		13点	9点	22点
	2点	18点	10点	30点

若い先生方が多数チャレンジしてくださり、また継続して応募してくださった方もおられました。研究主題は、児童生徒が主体となる授業づくりや新しく導入されたロイロノートの活用などに関するテーマが多く見られました。

令和5年度 草津市教育研究奨励事業表彰式の開催

令和6年2月22日（木）に、教育研究所2階研修室において、草津市教育研究奨励事業表彰式を行いました。草津市立教育委員会 藤田雅也 教育長より賞状、草津市教育会 稲垣保善 会長より副賞が授与されました。校園所賞には、高穂中学校が選ばれました。おめでとうございます。



今年度御応募いただいた研究主題および審査結果の一覧を次のページに掲載しています。また、受賞者の研究論文は [Teams の「教材共有ポータルサイト」の08 教育研究所のファイル](#)に掲載していますので、ぜひ御一読ください。さらに、次年度夏季休業中の研究発表大会において、最優秀賞・優秀賞に輝いた先生方の中から数名、研究内容を発表していただく予定です。

今後とも教育研究所の研究奨励事業への御支援、御協力をよろしくお願いいたします。

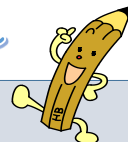


令和5年度 研究奨励事業 審査結果

研究部門	学校名	形態	応募者(グループ名)	研究主題	賞区分
就学前教育	山田こども園	グループ	新生ぼもぼちいこかの会	“いどむ・つながる・ふかめる”園経営イノベーション ～こども園の未来を切り拓く、2年目管理職ペアの挑戦～	優秀賞
	老上こども園	グループ	TEAM OIKAMI	「伝える」から「伝わる」へ 保育の可視化をめざして ～見える・わかる・つながるための取組を通して～	最優秀賞
ステップアップ	志津南小学校	個人	松田 隆志	できる楽しさを体験し、「運動がすき」「体育が楽しい」と思える児童の育成を目指して ～体育科の陸上運動「短距離走・リレー」を通して～(第5・6年生対象)	奨励賞
	草津第二小学校	個人	岸本 靖英	楽しいだけじゃない！自分の生活に密接した理科学習を目指して ～「体験活動」と「協働的な学び」を大切にしながら～	奨励賞
	渋川小学校	個人	貴島 柚子	多様な人との関わりから学び合う児童の姿を目指して ～ICTを活用した学級活動・児童会活動の充実を図る～	最優秀賞
	矢倉小学校	個人	山村 智子	「こんな自分になりたい！」を支える自立活動 ～小学校特別支援学級における自立活動の実践研究～	奨励賞
	常盤小学校	グループ	常盤小学校ESD	地域とつながり、持続可能な社会の実現に向けて、主体的に行動できる子どもの育成 ～子どもの学びがにつながるカリキュラムの構築～	教育研究所賞
	草津中学校	個人	水谷 哲郎	「中学校社会科における高次の知識・技能の活用を目指した授業展開」 ～パフォーマンス課題を通した使える知識の習得を目指して～	優秀賞
フレッシュ	志津小学校	個人	土守 将史	主体的に「学びとる」児童の育成 ～ロイロノートの活用を通して～	優秀賞
	老上小学校	個人	村上 大道	表現豊かにコミュニケーションを愉しむ子どもを育む英語学習	奨励賞
	志津南小学校	個人	藤沼 明子	自己の生き方について考えを深められる道徳教育を目指して ～道徳的価値が深まる活動構成の工夫を通して～	優秀賞
	草津小学校	個人	山田 俊一	体育科における「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す ～Teamsやロイロノートを活用した学習を通して～	奨励賞
	草津第二小学校	個人	浅野 有希	New草津型アクティブ・ラーニングにおける「自分でできた！」を支える教師の支援 ～Society5.0時代を生きる子どもたちのために～	奨励賞
	渋川小学校	個人	山崎 仁子	指名なし討論「バリバリタイム」でかがやく！ ～子どもの心に主体性が芽生える対話活動～	最優秀賞
	老上小学校	個人	松原 達也	主体的に考え、自分の考えを表現できる子どもの育成	奨励賞
	矢倉小学校	個人	服部 愛花	「仲間とつながる子どもを育てる学級活動」 ～互いのよさを認め合う、温かい学級を目指して～	奨励賞
	老上西小学校	個人	川島 奈緒	「児童の学力向上支援のためのノート指導に関する実践研究」	奨励賞
	玉川小学校	個人	白川 雄大	何でも言い合える人間関係を構築し、児童が主体的に居心地のよい学級づくり ～発達支持的生徒指導の視点を取り入れた学級経営の在り方～	奨励賞
	笠縫小学校	個人	武田 風香	対話をしながら自分の考えを表現する力や児童同士で問題解決をする力を育む国語科学習指導 ～読み解く力の「再構築」を目指して～	奨励賞
	笠縫小学校	個人	川本 展之	豊かな人間関係を築く力を育む自立活動及び教師の支援	奨励賞
	笠縫東小学校	個人	松尾 朋弥	自分が表したいものを表現することに喜びを感じられる図画工作科の授業の在り方について	奨励賞
	高穂中学校	個人	北澤 千紗	生徒の主体性を伸ばす授業研究	奨励賞
	高穂中学校	個人	福井 貴瑛	生活につながる硬筆指導に関する実践研究	奨励賞
	高穂中学校	個人	田中 ひなの	支援を要する生徒に配慮した有効的な視覚教材の工夫と授業実践	奨励賞
	草津中学校	個人	間瀬 良芽	家庭学習を通じて課題解決能力を高めるための取り組みのあり方	奨励賞
	老上中学校	個人	岩崎 早貴	読み解く力をはぐくむ社会科授業実践 ～単元構想シートとICTの効果的な活用～	奨励賞
	玉川中学校	個人	安部 ちひろ	どの教員も実践できる学力向上策への取り組みに関する研究	優秀賞
	玉川中学校	個人	講殿 萌	学びを実感できる「創作」の授業づくり ～ICTを活用して～	奨励賞
新堂中学校	個人	佐竹 二三也	学びの共同体実現に向けた指導法提案 ～複数の意図的な不正解から、不正解の理由を思考する～	最優秀賞	
松原中学校	個人	加藤 樹	学習者用端末を利用したりテリング活動を通して 自分の言葉で発信する英語力の育成を目指して	優秀賞	

御応募、ありがとうございました！
来年度も先生方の御応募をお待ちしております。





研究主題 「スタディ・ログ」を生かして自ら学びを調整する子を育てる算数授業
～「個別最適な学び」と「協働的な学び」という観点から学習活動を工夫して～

研究の概要

「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの充実に関する資料」(令和3年3月文部科学省)では、「児童生徒が主体的に学習を進められるよう、それぞれの児童生徒が自分にふさわしい学習方法を模索するような態度を育てることが大切」と記されている。そこで、本研究では、昨年度の継続研究に「スタディ・ログ」の蓄積を取り組みに加え、自ら学びを調整する姿をめざすことにした。算数科の授業において、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の要素を含んだ学習活動を設定し、児童が主体者となって学びに向かう授業づくりに取り組んだ。

研究の方法

- (1) 研究協力校(南笠東小、志津南小)にて、児童アンケート(意識調査)と授業参観、授業者からの聞き取りを実施し、児童の実態や課題を把握する。
- (2) 児童の実態や課題を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の要素を含んだ算数の授業計画を構想する。
- (3) 授業者と協働して教材研究に取り組み、本研究の実証授業を行う。
- (4) 事前・事後の児童アンケート(意識調査)と算数プリント(調査問題)の結果から「個別最適な学び」と「協働的な学び」の要素を含んだ学習活動の効果を検証する。

研究の内容

児童が主体者となって学びに向かう授業づくり

対象：小学6年生 教科：算数科 単元名：場合の数「並べ方や組み合わせ方を調べよう」

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の要素を含んだ学習活動を設定

課題を見つける学習活動

- ・課題を解決していく単元計画
- ・課題を見つける毎時間の流れ

スタディ・ログを活用する学習活動

- ・スタディ・ログの蓄積
- (毎時間の学びと自己評価の履歴)

自分の学びを評価する学習活動

- ・ルーブリックの提示
- ・ふりかえりタイムの設定

学び方を考えて、選択する学習活動

- ・フリー学習タイムの設定
- ・学習状況を示す色カードの提示

学びを調整するスキルを高めて、自ら学びに向かう姿へ

検証方法：児童アンケート(意識調査)の結果、学びチェック(児童の自己評価)の結果、学びの工夫プリント(ふり返り)の記述



↑児童が残した「スタディ・ログ」



↑フリー学習タイムの様子

研究の成果

- 本研究により、次の4点について可能性が示唆された。
- (1) 主体的に学習を進めていく単元計画の構想は、児童が自ら課題を見つけ、見通しを持って学習を進める意識を高めることができる。
 - (2) 既習内容が確認できる「スタディ・ログ」の蓄積は、児童が既習内容を把握し、それらを活用する姿を引き出すのに有効である。
 - (3) 自分の学びを評価し、調整する「ふりかえりタイム」の設定は、自分の学びへの関心を高め、自分の学習状況に合わせた学習活動を考える姿を引き出すのに有効である。
 - (4) 自ら学習活動を選択する「フリー学習タイム」の設定は、学習活動を工夫し、粘り強く解決しようとする意識を高めることができる。

研究の課題

- 本研究の実践を通して、次のような課題が見えてきた。
- (1) 児童が「スタディ・ログ」を有効に活用できるようになるためには、経験を増やしていく必要がある。
 - (2) 児童が自分の学びを正しく評価し、調整していくためには、他者の評価方法や調整方法を知ることも重要である。
 - (3) 児童が評価して復習するだけに留めないために、新しい学びへ発展させる方法や学習内容を掘り下げて深めようとする手立てを指導者が示す必要がある。
- 本研究の実践には、まだまだ改善すべき点があいくつもある。

研究協力校(研究協力者)

南笠東小学校(新川 和毅 先生)、志津南小学校(藤沼 明子 先生)

本研究の実践で多大なる御協力を賜りましたお二人には、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



地域教材(わたしたちの草津)について

令和5年度「わたしたちの草津」編集委員会の活動について

活動の経過

- ・第1回推進委員会・編集委員会(全体)・・・令和5年5月26日
- ・各委員による作成、見直し、編集作業・・・令和5年5月～7月
- ・第2回編集委員会(推進委員、編集委員)・・・各グループで随時開催
- ・第2回推進委員会(原稿確認)・・・令和5年12月26日
- ・第3回編集委員会(全体)・・・令和6年2月8日

活動の様子



活動の内容

令和5年4月に発行された社会科副読本「わたしたちの草津」(部分改訂版)と昨年度に編集した指導書の内容に合わせたワークシート・評価テストを作成しました。また、タブレットPC活用促進に向けて「わたしたちの草津」デジタル問題を新たに作成しました。

①ワークシート・評価テストについて

昨年度、作成した指導書の内容に合わせて、ワークシートと評価テストを作成しました。作成のポイントは、次の通りです。

- ①指導書に準じた内容の精査
- ②3観点を意識した出題
- ③わかりやすいレイアウト(写真や図の工夫)
- ④評価しやすい採点基準や解答例
- ⑤すべての漢字にルビうち など

昨年度末に、現場の先生方から集めた声をもとに、より活用できるものをめざして作成しました。

②デジタル問題について

副読本「わたしたちの草津」の学習内容について、児童が自分のタブレットPCで取り組めるクイズ形式の問題を作成しました。

2月には、市内小学校で試行も行いました。御協力ありがとうございました。次年度4月より公開されますのでぜひ御活用ください。



「L-Gate」の「教材・アプリ」の中で「わたしたちの草津」デジタル問題を公開します！

作成や編集等に携わってくださった皆さん、御協力ありがとうございました。

ワークシート見本・評価テスト見本、CD-R(データ)の配布について

今年度、編集委員会で作成したワークシート・評価テストにつきましては、2月に編集委員さんを通じて見本やCD-Rを配布済みです。各学校の学習内容に合わせて、データを編集して御活用いただきたいと思ひます。

各小学校への配布したもの

- ①3年生ワークシート見本 1冊
 - ②4年生ワークシート見本 1冊
 - ③評価テスト見本 2冊(3、4年で1冊ずつ)
 - ④CD-R(データ) 2枚(3、4年で1枚ずつ)
- *指導書につきましても、次年度3・4年生の学級数分、配布済みです。



「わたしたちの草津」データ資料(Public-情報提供【教育研究所】)を御活用ください！

「わたしたちの草津」に関するデータ資料は、Publicでも提供しています。それらを活用していただければ、より授業が充実すると思ひます。データは、コピーすれば編集も可能です。ぜひ、提示資料、教材プリントなどに有効活用してください！

データ資料はここにあります！

Public-情報提供【教育研究所】—わたしたちの草津

こんなデータ資料があります！

- ① わたしたちの草津 PDF
- ② 使用している写真一覧
- ③ 指導書
- ④ ワークシート(一括PDFと単元別Word版)
- ⑤ 評価問題(一括PDFと単元別Word版)



スキルアップ（授業づくり・学級づくり）支援講座を振り返って

スキルアップ支援講座では、授業を参観させていただいて、「授業展開の工夫や学級経営のポイント」、また「ICT機器の普段使いを通して『主体的・対話的で深い学び』をどのように実現するか」について、対象の先生方とともに考えてきました。どの先生も、「少しでも良い授業をしたい」という思いをもって授業に取り組んでいただけており、授業後に話をする中で、単元のゴール設定や効果的な課題設定や発問の工夫についての意識を高め、早速次の授業に活かそうとする意欲的な姿が見られました。



スキルアップ
対象者から（一部抜粋）

- ・毎回、学級の様子について助言をいただけたので、自分の授業のことを後から振り返ることができました。また、悩んでいることについて相談にのっていただいたり、一緒に考えていただいたりしたことで、子どもたちへの様々な関わり方や指導のしかたを考え、実行していけたと思います。（小）
- ・担当の先生が学期ごとに来ていただけることで、教材研究や教具などにより時間をかけて準備することができました。すぐにフィードバックをしてくださったので、次の日から取り組むことができました。児童につけさせたい力は何か、子ども同士の交流の大切さなどを考える機会が増え、学年で話をするきっかけにもなって良かったです。（小）
- ・スキルアップ支援講座を通じて、自分が現在できていることの確認ができた。自分の強みを活かした授業や学級経営に自信を持つことが出来た。学校の中での実践が、校内だけでなくたくさんの方々目に留まることで、生徒だけでなく教師の活力や刺激にもつながると思うので、定期的なスキルアップ支援講座はとても良かったと思う。（中）

ICTスキルアップ支援講座を振り返って



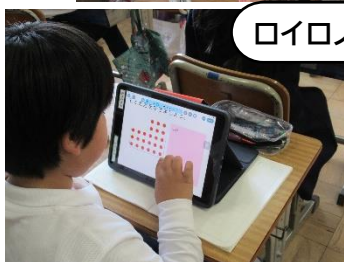
スクラッチ



ドローン



ロイロノート



今年度導入されたロイロノートやeライブラリは学習の必需品として、従来のアナログ教材・道具と同様に使われるようになってきました。オンライン接続も良好になり、待たされることなく学習が進められています。ICTスキルアップでは、授業でのICT活用とScratchやViscuitを使ったプログラミング学習の支援を実施し、プログラミングに挑戦する子どもたちの姿が見られました。それぞれの学級の1年間を振り返り、成果と課題を整理して次にステップアップしたいことを見つけましょう。

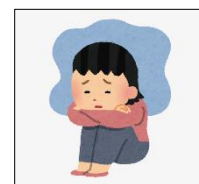
スクールソーシャルワーカー SSW恒松先生が語る シリーズ教育相談



自分を認めることができたYさん

Yさんは何をやるにしてもペースがゆっくりの女の子でした。小学校の頃から給食ではいつも時間内に食べ終わらず、皆が掃除をしている間も机を端に移動して食べていました。ゆっくり待ってもらえれば自分の意志や思いをきっちりと相手に伝えることができます。でも、学校では自分が考えている間に会話の内容は次に移ってしまい、一言も発さないまま一日を終ることがほとんどでした。

小学校は小規模校で、幼稚園時代から一緒に学んで来た皆がYさんのことを理解してくれていました。でも、中学校は隣の規模の大きな小学校と一緒にになり、周りはYちゃんを知らない子ばかり。先生は授業毎にころころ変わり、移動教室も距離が遠く、いつも急かされ、追い立てられている（と感じる）毎日が続きました。Yさんは頻繁に頭痛を訴えるようになり、1年の2学期が終わる頃には「もう無理だ」と動けなくなってしまいました。



Yさんはお父さん、お母さんと相談して「学校に行かない」ことを選びました。自分の夢があったYさんは大学には行きたいと思っていました。中学校も高校にも行かず、高等学校卒業程度認定試験を受けて大学を受験したいとのことでした。週1日フリースクールに通い、他の日は家と図書館で勉強をすることにしました。元々真面目で学力の高かったYさんは、自分のペースで学習を進める中でめきめきと力を伸ばしていきました。中学2年生最初の期末テストでは「国語が一番できなかった…。92点しか取れなかった…」と悔しがっていました。家庭訪問してくれる担任の先生は「授業に出ずにその点数を取られたら先生も辛いなあ」と笑いながら言ってくれました。その先生と少しずつ関係ができてくる中で「図書館に行くくらいなら、学校の別室で勉強しては？」と勧められ、2年生の2学期からは週1日で別室登校を始めました。

2年生の終わりも近づいた頃、自分が憧れる職業で活躍されている人に出会う機会がありました。その方から「自分も不登校だったけれど、高校に行けるなら行っておいた方が断然いいよ。」とアドバイスをもらったこともあり、本人から「高校に行こうかな…」という発言が出てきました。そして、3年生になってからは少しずつ登校日数や教室で授業を受ける時間を増やし、3学期には受験に臨み、見事に志望校に合格しました。

「もう無理だ…」と疲れ果てた時に、「休む」「自分のペースを取り戻す」ということを両親も、学校の先生も認めて受け入れてくれました。そのことで本人も「自分を受け入れる」ことができたのではないかと思います。ただでさえ「周りの皆と同じでなければ」とプレッシャーを感じる思春期の子どもたちにとって「自分は自分でいい」と思えることはとても大切です。それこそが、正しい自己肯定感だと思います。十分なエネルギーを溜め、自分のペースで学べると、子どもたちは本来持っている力を発揮し、成長に向かう道を選んでいくのだとYさんから教えられました。Yさんは、まだまだ大学生として道半ばですが、夢に向かって着実に歩みを進めています。



やまびこだより

やまびこ教室から

☆1月 次世代文化芸術体験☆

♪お茶会♪ 1月25日に開催した文化芸術体験では専門の方からご指導いただいて一人ひとりが自分で抹茶を点てたり、俄かづくりの茶室で京都の家元の方から直接おもてなしを受けたりして貴重な体験ができました。



☆2月 バレンタイン パーティー☆

♪バレンタイン調理♪ 青地教室 (2/14) 上笠教室 (2/19) でバレンタイン調理に取り組みました。チョコレートとこしあんを組み合わせたオリジナルなクッキーづくりに挑戦しました。その後みんなで美味しくいただきました。

今年度やまびこ教室には37名(青地20名 上笠17名)の児童生徒が在籍していました。先生方にはお忙しい授業の合間に各教室の子どもの様子を見に来たり、各種行事の折に見学に来たりしていただき、ありがとうございました。教室に通う子ども達も、とても喜んでいました。また、各関係機関の方々にも大変お世話になりました。皆様この1年間、本当にありがとうございました。これからもよろしく願います。

相談室から

教育相談室での相談は、今年度は小学生の相談が増加しました。傾向として、小学校低学年から集団に馴染めず行き渋ったり、中学年頃から学習に対して自信が無くなったり、友達や集団の中にうまく入れなかったりして、しんどくなるようです。学校や家庭において、子どもたちが出す様々なサインを見逃さずに早期に対応したいものです。

やまびこでは、SSW(スクールソーシャルワーカー)を常勤で配置し、保護者・児童生徒それぞれへの面談を受けて、学校と連携して複合的な課題を整理しながら、子どもや保護者が自らの力で問題に向き合っていけるよう支援しています。今後ともよろしく願います。



第三回 不登校の子どもたちの保護者の集い

2月29日（木）に第三回「不登校の子どもたちの保護者の集い」を実施しました。今回は、前半にお子さんがやまびこ教室に通っておられた保護者の方からお話をさせていただきました。不登校になった頃のこと、これまでたくさん葛藤されてきたこと、お子さんとどのように向き合ってきたか、このような時間を過ごしてきて今、感じておられることなど、経験者として語れることをお話くださいました。御参加くださった保護者の皆さんのそれぞれ抱えておられる悩みやしんどさに少しでも力になりたい、寄り添いたい、そんな思いが伝わってきました。

後半は、各グループでそれぞれの思いを語っていただきました。今回は、お子さんの年齢が近い保護者でグループを作りました。今回、初めて御参加された方は「自分の気持ちが話せてよかった」とおっしゃっていました。また、知りたかったことについて他の保護者の方から教えてもらった保護者の方もおられて「知りたかった情報が聞けて安心した」という声もいただきました。

また、次年度もこのような機会を設けていきたいと思えます。



教科書センターより おすすめの書籍

『生徒指導の記録の取り方』

周防美智子・片山紀子／著 学事出版

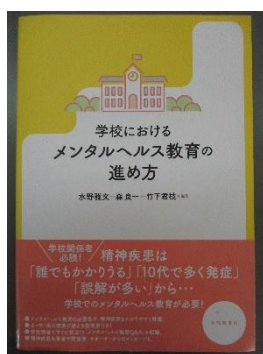
草津市の学校問題サポートチームアドバイザーである周防美智子先生と京都教育大学大学院の教授である片山紀子先生が、「生徒指導の記録」の取り方について徹底解説されている1冊です。子どもたちをどう「アセスメント」し、どう「聞き取り」、どのように「記述」して、どう「保管」するのか、現場が忙しい今だからこそ、正しく記録を取る方法について考えてみませんか。



『学校におけるメンタルヘルス教育の進め方』

水野雅文、森良一、竹下君枝／編著 大修館書店

本書は、近年、若い世代でも多く見られるようになった社会課題である「精神疾患」に対して、学校が果たすべき役割について考えさせられる1冊です。最先端で活躍されている精神科医や学校現場に詳しい専門家・教職員の方が精神疾患の特性だけでなく、メンタルヘルス教育の必要性や学校での実践方法を解説されています。小・中・高の授業で使える指導案や学校現場ですぐに役立つ「メンタルヘルス教育Q&A」が収録されています。また、精神疾患当事者や関係者・サポーターからのメッセージも掲載されています。ぜひ一度、ご覧になってみませんか。



シリーズ

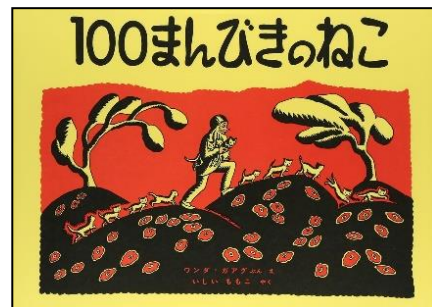
司書さんおすすめの絵本



『100まんびきのねこ』(ワンダ・ガアグ/ぶん・え いい ももこ/やく 福音館書店)

昔あるところに、おじいさんとおばあさんがいました。二人はきれいな家にすんでいましたが、幸せではありませんでした。とてもさびしかったのです。「うちに、ねこがーびきいたらねえ」。おじいさんは、ねこを探しに出かけます。

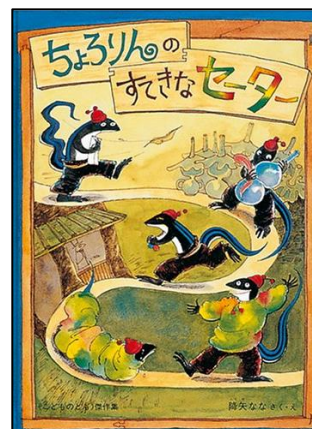
原作は1928年に発表、日本でも1961年の初版から長く親しまれてきた絵本です。昔話風の物語が、ダイナミックな絵とともに、心地よいリズムカルな言葉で語られています。絵はモノクロ、文章も多めですが、自由で発想豊かな物語世界が、子どもたちの心をぐっと引き付けます。



『ちよろりんのすてきなセーター』(降矢 なな/さく・え 福音館書店)

ちよろりんは、寒がりやのとかげの子。町の洋品店で見かけた、春のはらっぱ色したセーターが欲しくてたまりません。けれどそれを買うには、おこづかいが少し足りず、じいちゃんにはなして、仕事を手伝うことになりました。

絵本では珍しく、とかげやひきがえるがメインで登場し、生き物への関心が広がります。働くことの大変さ、大人の厳しさ温かさも伝えます。子どもたちはちよろりに寄り添って、一喜一憂するでしょう。特に最後の見開きは仕草に思いが込もっており、しっかり見せてあげたい場面です。

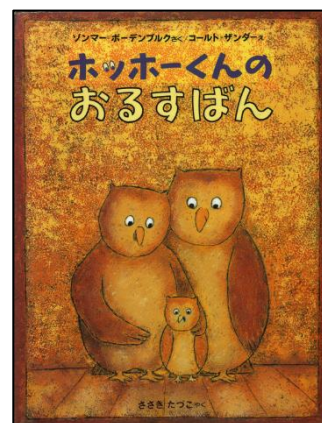


『ホッホーくんのおるすばん』

(アンゲラ・ゾンマー=ボーデブルク/作 イムケ・コールト=ザンダー/え ささき たづこ/やく 偕成社)

屋根裏で両親と暮らす、末っ子ふくろうのホッホーくん。ひとり立ちのための練習をうながされても、「いやだよ、いやだ。きょうはいや」と、甘えてばかりで、ちっともやる気ありません。そんなある日、ひとりぼっちの留守番中に、どこからか不気味な足音が聞こえてきました。

なかなか自立しない甘えん坊な子の、背中をそっと押してくれる絵本です。独特な質感の絵で描かれ、温かなユーモアにあふれています。子どもたちは共感し、お話を楽しみながら、学ぶことの大切さを素直に実感できるでしょう。



読み聞かせなどに、ご活用ください

このシリーズは、市立図書館の司書さんのご協力を得て作成しています。

